

1 単元 「海外の人が知らない福岡の魅力を発信する観光ガイドブックを作ろう」

2 教科論と本単元の関わり

4 技能5領域のうち、本単元で主に焦点を当てるのは、「読むこと」と「書くこと」における他者意識の醸成である。ガイドブックの作成の際に、特定の個人ではなく「訪日外国人」という幅広い「他者」が、日本の観光に何を求めているかを捉えさせた上で、彼らのニーズに合わせた場所や情報の選択を行わせたい。また、級友同士で作成したガイドブックを読ませることで、書き手として伝えたいことや意図をくみ取らせ、より良いガイドブックの作成につなげさせたい。

3 指導観

教材観・単元指導観	生徒観
<p>2024年8月時点で、訪日外国人の数が7か月連続で同月過去最高を記録した。また、国交省が示す『第4次観光立国推進基本計画』の柱の一つに「地方誘客促進」が掲げられていることから、国内の様々な地方に目を向けながら、その土地の魅力を適切に発信する力が今後求められる。</p> <p>本単元は、訪日外国人向けに生徒自身の地元を紹介する観光ガイドブックを作成する活動を通して、海外の人々が日本に何を求めているのかを捉え、そのニーズに合わせた紹介をできるようになることをねらいとする。昨今の日本における観光の現状を提示しながら、彼らが何を求めて訪日しているのかを予想させた上で、訪日外国人の現状について把握する場面を設定する。本単元は、海外の人々が考える日本の魅力を実際に捉えさせた上で、生徒自身が生活する地元を目を向けさせ、彼らのニーズに合わせた情報発信ができるという点において意義深い。</p>	<p>個人情報保護のため、 生徒観は省略しています。</p>

4 目標

- There is (are)～.や、You can go there by ○○ from ●●.のような移動手段に関する表現の使用場面を把握し、地元紹介のガイドブック作成において具体的な内容を書くことができる。
- 訪日外国人のニーズに沿ったガイドブックを作ることができるように、外国人が日本に求めているものが何かを捉えたうえで、場所や情報の選択を行うことができる。
- 訪日外国人の観光に対するニーズを捉えながら、観光ガイドブック作成に向けて、適切なプランを立案・作成しようとする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>ア There is (are)～.や紹介に必要な表現 (You can go there by bus from Fukuoka Airport. など) の使用場面を把握している。</p>	<p>イ 「書くこと」において、読み手である訪日外国人が日本に求めるニーズに合わせて、場所や紹介する情報を選択しながら、ガイドブックを作成している。</p> <p>ウ 「読むこと」において、級友のガイドブックから、読み手の興味を引く工夫 (内容構成や見出しの付け方など) を読み取っている。</p>	<p>エ 海外の人々が日本の観光に求めるものを捉えた上で、ニーズに合わせた観光地を選びながら、ガイドブックを作成しようとしている。</p> <p>オ 福岡県観光連盟や外国人の読み手からのフィードバックから、ガイドブック作成における内容や構成に関する成果と課題を挙げようとしている。</p>

6 計画 (10 時間)

次	配時	学習活動・内容	主たる手だて (○)	評価
一	2	1 日本や福岡を取り巻く、観光の現状を把握し、海外の人々が日本に求めるものが何かについて予想する。 ・訪日外国人観光客の実際	○ 今日の日本における外国人観光客の状況を把握させるために、2024年現在の訪日外国人の数や、福岡県観光連盟の資料を提示した上で、「日本の特徴や魅力は何なのか」「あなたの地元の魅力は何か」を問う。	エ
		<p>〈学習課題〉</p> <p>外国人観光客が増える中、あなたの地元によくの観光客が来てもらえるように、地元の魅力を発信するガイドブックを作成し、福岡県観光連盟へ提案しよう。</p>		
二	6 本時 4/6	2 実際に海外の人々から、日本の魅力や特徴を聞き出し、観光地としての日本の姿を捉える。 ・観光地としての日本や福岡の特徴	○ 多様な海外の人々の考えに触れさせるために、福岡県観光連盟からのデータや周囲の外国人へのインタビューから得られた情報を級友同士で共有するよう促す。	アイウ
		3 共有した情報に基づき、自身の地元の場所についてガイドブックを作成するとともに、作成した内容を級友同士で読み合い、中間評価から適宜情報の付加修正を行う。 ・There is~, There are~の用法 ・ニーズに合わせた情報選択の方法 ・提案に必要な情報 (交通手段や具体的な体験内容など) (例) You can go there by bus from Fukuoka Airport. You can enjoy the beautiful nature. など	○ There is(are)~.の使用場面を捉えさせるために、教科書の内容を参照させ、参考になる表現はないか、どのように応用することができるかを問う。 ○ 読み手に合わせて表現を工夫させるために、どのような情報があると観光地に興味を持ってもらえるのかを問い、交通手段や具体的な体験内容についての情報を取り入れたり、近隣のエリアごとにまとめることができるかどうかなどの視点を提示したりする。 【書くこと・読むこと】	
三	1	4 完成したガイドブックを読み合い、級友同士でフィードバックを行う。 ・書き手の意図の読み取り方	○ 級友のガイドブック作成における工夫点や意図に気付かせるために、内容面と構成面からに関するフィードバックの視点を提示する。【読むこと】	ウ
四	1	5 単元を振り返り、自身のガイドブックの適切さについて分析する。 ・他者意識のある表現の有用性	○ 他者のニーズに合わせたガイドブックを作成することができたかを検証させるために、福岡県観光連盟や周囲の外国人からのフィードバックをもとに、場所や情報の選択からガイドブック完成までの成果と課題が何だったのかを問う。	オ

7 単元を終えた生徒の想定される姿

単元の学習を終えた生徒を、以下のような記述ができる生徒として設定し、総括的評価を行う。

私は、はじめは海外の方が日本に観光に来る目的は「有名な観光地やショッピングに行くこと」だと思っていました。しかし、観光連盟や海外の方からの情報を確認したりすると、「その土地ならではのことに触れること」や「地元の人に会おうこと」などの目的があることが分かりました。その視点から地元を見直してみると、条件に合う場所を見つけ、その場所への行き方や体験できることを表現することができました。伝える相手のニーズを捉えることが大切だと思いました。これからの学習でも他者のニーズを捉えながら紹介をしていきたいです。

8 公開本時についての補足

(1) 実施日

令和6年11月8日(金) 4校時 二次の4 1年3組教室にて

(2) 二次の4～6を通じた主眼

個人が設定した地元紹介のガイドブックを作成する活動を通して、地元で体験できる具体的な内容や、目的地までの交通手段の情報を取り入れることなどの必要性に気付き、自身のガイドブックの内容に書き加えることができる。

(3) 生徒の学習活動

学習活動		形態	配時
1	前時までの作成内容を確認し、本時のめあてをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> Goal (例) ※各自が自身の計画書に沿って設定する。 ガイドブック作成の続きを行い、より良いガイドブックになるように内容の付け加えや見直しをしよう。 </div>	一斉	8
2	自身が選択した場所についてのガイドブックの作成を行う。【書くこと】 <想定される生徒の活動> ・選択した場所についての情報を調べる。 ・ガイドブックにどんな情報が必要かを書き出す。 ・ガイドブックの作成や内容の修正を行う。 ・必要に応じて級友のガイドブックを参照し、どんな情報を取り入れているかを確認する。 ・書店で販売されているガイドブックを参照し、どんな情報が書かれているかを確認する。	個 ペア 小集団 ※任意	15
3	作成途中のガイドブックの中間評価を行い、必要な情報を共有しながら自身のガイドブックを見直す。【読むこと】 <想定される生徒の活動> ・級友の作成したガイドブックを読み合い、紹介に有効な表現や工夫点を見出し、伝え合う。 ・実際のガイドブックを参照しながら、記載されている情報と、自身の紹介内容とを比較し、自身のガイドブックを修正する。 ・具体的な情報や、移動手段に関する情報の必要性に気付き、自身の紹介に取り入れる。 ・近隣のエリアごとにまとめることの必要性を認識し、地元が近い級友の紹介文を参照する。 ・情報の羅列だけでなく、オリジナリティのあるガイドブックとして生徒自身が勧めたい内容が入っているかを確認する。	小集団 ↓ 一斉	17
4	共有した情報をもとにガイドブックの内容を推敲し、適宜付加修正を行うと共に、次時に向けた課題を確認する。【書くこと】	個	10

(4) 主たる手だて

活動3において、ガイドブックを作成する上で、具体的に体験できることや交通手段、エリアごとにまとめた情報が必要であることに気付かせるために、ガイドブックに必要な情報が何かを問う。また、市販のガイドブックの工夫点や不足している点は何かという視点を提示しながら級友同士で作成したガイドブックの中間評価を行う機会を設定する。

(5) 想定される生徒の姿

[展望する姿] 活動1・2において、どのような情報が必要かを捉える姿。また学習活動4において次時に必要な活動を把握する姿。

[行動する姿] 活動2・4において、必要に応じて級友と協力しながら、ガイドブックの情報の付加を行う姿。

[省察する姿] 活動3において、自身および級友のガイドブックの中間評価を行い、必要な情報が何かを説明し、自身のガイドブックを見直す姿。

1 単元 「Find Out Strategies for Parliamentary Debate」

2 教科論と本単元の関わり

ディベートは、スピーキングをはじめ「4技能5領域」を総合的に伸ばすことのできる学習活動である。本単元では、ディベートに勝つための要素を探り、班で立てた計画をもとに、ディベートに向けた準備をする時間を設定する。ディベートに勝つためには、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」それぞれの技能において、自分と考えの異なる他者を意識し、ジャッジや相手を説得するために、相手の主張を深く理解し、論理的に反論する過程において、他者意識が醸成されることが期待される。

3 指導観

教材観・単元指導観	生徒観
<p>グローバル化の進展にともない、人、もの、情報の流動性は高まっている。日本においても在留外国人の数は、過去最高の341万人まで増加している。多様な価値観が共存する現代社会では、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を尊重しながら議論できる力が求められている。</p> <p>本単元は、与えられたテーマについて即興でディベートをする活動を通して、論理的な思考力や表現力を養い、自分の意見を効果的に伝えられるようになることをねらいとする。そこで、第一次において、ディベートで勝つためにそれぞれの班で立てた計画を、第二次で、その計画にのっとりそれぞれの班で活動していく場を設定する。相手を説得するために、根拠をもとにしたわかりやすい表現や、相手の意見を論理的に捉えるための聞き方を模索することができる点で、本単元は大変意義深い。</p>	<p>個人情報保護のため、 生徒観は省略しています。</p>

4 目標

- ディベートの基本的なルールや構成を理解し、調べた情報を整理して論理的な文章を作成することができる。
- ディベートする際に、与えられたテーマについて、複数の視点から考察し、自分の意見を明確に表現するとともに、相手を説得するための表現を用いて、論理的に説明することができる。
- ディベートで勝つために、班で協力して相手を説得するために必要な表現や情報収集などの計画を立てようとする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>ア 既習の言語材料から、議論に必要な語や表現を選択することができる。</p> <p>イ ディベートのテーマに関する情報を効果的に収集し、分析し、立論に結びつけることができる。</p> <p>ウ 社会的な話題について、肯定、否定の立場で、論理的な根拠に基づいた主張を、適切な語彙を用いて表現することができる。</p>	<p>エ 自分の考えを分かりやすく伝えるための文章構成について説明することができる。</p> <p>オ 主張や反駁に備え、多様な視点から立論することができる。</p> <p>カ 他者の主張を取り入れ、自分の主張を修正することができる。</p> <p>キ 自分の発表や議論を客観的に評価し、改善点を見つけることができる。</p>	<p>ク ディベートの目的や方法を把握し、ディベートに勝つための計画を立てようとしている。</p> <p>ケ ディベートに対して積極的な姿勢を持ち、自ら課題を見つけ、その課題について解決しようとしている。</p>

6 計画 (12 時間)

次	配時	学習活動・内容	主たる手だて (○)	評価
一	2	<p>1 学習課題を把握し、課題達成に向けた計画を立案する。</p> <p>(1) Parliamentary Debate に必要となる力を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディベートのルール ・ディベートにおいて求められる要素 <p>(2) ディベート本番に向けた計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本班に適した、計画の立案方法 	<p>○ 即興型ディベートに求められる要素を捉えさせるため、ディベート大会の動画を提示する。</p> <p>○ 自身の班に適した計画を立案させるため、前時で挙げた要素に対する本班の達成度を計画書に記述するよう促す。</p>	ク
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>< Task > Find Out Strategies for Parliamentary Debate</p> </div>				
二	6	<p>2 班の計画に則り、ディベートに向けた準備をする。</p> <p>(1) ~ (3)、(5) ~ (6) は、班ごとに計画に則って活動する。</p> <p>※想定される生徒の活動例</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>① 話者の役割を確認し、役割を分担する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定側、否定側における話者の役割 <p>② 主張の際の構成の特徴を見出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的な構成の在り方 <p>③ 他の班と模擬ディベートをおこなう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・逆の立場からの視点 ・ディベートの流れ <p>④ 主張に対する質問をおこなう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・POI の方法 <p>⑤ ジャッジの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャッジの役割 ・判断基準 </div> <p>(4) 模擬ディベートをおこない、本番に向けた計画を練り直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディベート本番に向けた見直し 	<p>○ 多様な話題に触れさせるために、各授業の最初にピンポンディベートの活動を設定する。</p> <p>○ 計画を調整させるために、毎時間振り返りと計画の見直しの場面を設定する。</p> <p>※以下は生徒の求めに応じて提示できるように準備する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>○ それぞれの話者の役割を捉えさせるため、ディベートの流れと話す項目の書かれた表を提示する。</p> <p>○ 論理的なスピーチの構成を捉えさせるために話の切り出し方や、反論などで使用する表現を提示する。</p> <p>○ 偏りのない話題でディベートをさせるために論題集を用意する。</p> </div> <p>○ 現段階での課題と、本番に向けた見直しをもたせるために、模擬ディベートの反省と、当初の計画を比較し、計画を練り直すよう指示する。</p>	アイウエオキ
三	3	<p>3 ディベートをおこなう。</p> <p>(1) 肯定側、否定側、ジャッジに分かれてディベートをおこなう。(一回目)</p> <p>(2) 一回目のディベートを振り返り、二回目に向けた作戦を立てる。</p> <p>(3) 肯定側、否定側、ジャッジに分かれてディベートをおこなう。(二回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手を説得するための方法 	<p>○ 議論を活性化させるために、停滞している班があれば、質問を投げかける。</p> <p>○ 時間内で進行させるために、全体の時間管理をおこなう。</p> <p>○ ディベートで勝つための要素を整理させるため各ディベートのジャッジシートを参照するよう促す。</p>	イウオカ
四	1	<p>4 単元の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的な説明の有用性 ・本単元における成果と課題 	<p>○ ディベートにおける論理的な説明の有用性を捉えさせるために、各立場から有効だった表現を、振り返りシートに記述するよう指示する。</p> <p>○ 本単元での成果を振り返らせるために、ワークシートを確認させ、本単元における成果は何かを問う。</p>	ケ

7 単元を終えた生徒の想定される姿

単元の学習を終えた生徒は、本単元で学んだことについて、「ディベートでは、自分の意見と異なる立場に立って主張をしなければならぬ場合があるので、相手を説得することができるのか不安でした。しかし、異なる視点から物事を見つめ直すことで、相手の論理を理解し、それを自分の言葉で展開する力が身につきました。また、限られた時間で自分たちの主張を準備しなければならぬため、主張の優先順位をつけたり、主張をわかりやすく端的にまとめたりする力がつきました。」という旨の言葉を述べる姿を最終的なゴール像として設定し、総括的評価を行う。

8 公開本時についての補足

(1) 実施日

令和6年11月8日（金）4校時 二次の4 3年3組教室にて

(2) 主眼

他の班と模擬ディベートをする活動を通して、ディベートで勝つために各班で設定した計画と模擬ディベートで出た課題を比較して、本番に向けて必要な要素を踏まえ計画を再検討することができる。

(3) 生徒の学習活動

学習活動		形態	配時
1	本時のめあてを確認し、班の目標を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> Today's Goal Let's have a practice match and review the plan. </div>	一斉	5
2	与えられたテーマについて、肯定側、否定側に分かれてディベートをおこなう。 <想定される生徒の活動> ・テーマに関する情報を収集する。 ・役割ごとに主張する論を決め、立論の原稿を作成する。 ・想定される質問を整理する。	小集団	35
3	本時の活動で出た課題を整理し、本番に向けて計画を再検討する。	小集団	10

(4) 主たる手だて

活動3において、ディベート本番に向けた計画の再検討をさせるために、計画シートと模擬ディベートの振り返りシートを比較し、そこで出た課題を解決するために必要な要素について話し合う時間を設ける。

(5) 想定される生徒の姿

[展望する姿] 活動2において、与えられたテーマについてディベートをおこなうために、情報収集や立論など、準備時間の使い方について検討をおこなう姿。また、活動3において模擬ディベートで出た課題をもとに、本番までの計画の再検討をおこなう姿。

[行動する姿] 活動2において、与えられたテーマについて情報を収集し、根拠をもった論理的な文章を作成する姿。また、作成した論をもとに模擬ディベートに取り組む姿。

[省察する姿] 活動3において、ディベートの振り返りをもとに活動1で出た目標と比較して班の課題を見いだす姿。